

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900149		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋二子		
所在地	千葉県船橋市二子町629-2		
自己評価作成日	平成22年1月13日	評価結果市町村受理日	平成22年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成22年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安楽で安心できる環境を整備するとともに、ご利用者様の状態を考慮し、出来ることは可能な限りおこなっていただき、できないことだけを支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 船橋市郊外の閑静な住宅街で、JR駅より徒歩で行ける所に立地した、訪問に便利なホームです。
 2. このホームは、健康面、医療面に力を入れており、内科医・歯科医、看護師が毎週来訪するようになっており、介護度が下がった利用者もいます。
 3. このホームの良い点は、理念にも掲げている「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフのサポート」「地域の人々とのふれあいを大切にする」を、既に日常実施していることです。また、前年家族会で行われた意見を誠実に受け止めて、着実に運営に反映しています。実際、職員はやさしく見守り、利用者のペースを尊重し、利用者の出来ない事をサポートするように心がけています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は1F、2Fの各階段室に別途3項目の”ケア方針”と共に掲示されており、ご家族様、利用者様、職員が常に見ながらそこで過ごしております。また、朝礼終了後にはスタッフで唱和します	「地域の人々とのふれあいを大切にします」と、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目を含む、3項目からなる運営理念を各階段室に、「ケア方針」と共に掲げ、職員は朝礼後に共有、確認し、日常のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もちつきやすいか割りへの参加や、納涼祭やクリスマス会には近所の保育園を借りて、園児たちといっしょに交流しています。	町内会に加入し、積極的に行事(餅つき、スイカ割り)に参加しています。ホーム主催の納涼祭、クリスマス、敬老会等には、家族、地域の方々にも声をかけています。また、ボランティアを受け入れたり、保育園との交流も実施したりして、着実に地域に根ざして来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会などに参加し地域の方々とお話ができる機会を設け何かお手伝いできることがあれば、今後積極的に取り組んでいきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催しております。直近はH21.12で参加者は30名ほどです	年5回、地域包括支援センター、関係医療関係者、家族、ホーム長、職員で開催しています。議題は、ホームの現状説明(運営、介護現場)、ホーム独自の家族アンケート結果の報告と改善状況で、家族、出席者で話し合っています。	外部の方々も出席しやすい日程を配慮して年数回定期的に開催すること、議題には、外部評価の報告と改善状況、ホームの課題や出席者の関心事項について意見を求め、サービスの改善・向上につなげることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市レベルでは、”グループホーム連絡会”があります。この5年間で3回出席しております。直近ではH21.6に参加しております。	必要な都度、市担当には報告、相談しています。また、グループホーム連絡会の場で市担当から情報を得ています。年5回開催する運営推進会議には、必ず地域包括支援センターの出席を仰ぎ、アドバイスを受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体の身体拘束のマニュアルがあります。また、玄関施錠は実施しておりますが、地域的なものを考慮しやむえなくしております	身体不拘束のマニュアルを作成し、職員は適時研修を受けています。ホームが車の往来の多い通りに面しているため、安全のため家族会の了解を得て日中も施錠していますが、利用者が外出を希望すれば、職員が連れ添うようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村・県・会社から虐待防止に関する資料を職員・スタッフに連絡帳などに掲載し注意・防止に努めています。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適宜、個々に必要性がある際は話し合い必要であれば活用して頂くように促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退去の際、利用者様、ご家族様に不安、疑問点を尋ね、理解・納得されるまで十分に説明する時間を設けている。改めて質問等あった際は、理解・納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回会社独自のお客様アンケートを実施しその内容を家族会(12月)の際発表し苦情や意見を貴重な情報とし、それを元に運営を見直す。	昨年独自の家族アンケートを実施し、12月の家族会で結果報告し、4月に改善の進捗状況を報告しています。実施例としては、「外出支援の個別対応の機会を増やす」「体力・筋力低下対策として足湯の実施や体操の実施、訪問リハビリの導入」等があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を開き、職員の意見、提案等含め話し合い運営に反映させている。改めて説明また意見を聞く機会が必要な時は臨時に会を開き対応しています。	日常の就業時や月1回の職員会議で職員の意見を聴き、運営に反映しています。具体例としては、「足のむくみ軽減のため、足湯を実施」「掲示している職員紹介写真に各自のコメントを添えた」「職員の休憩所として遊休空間を活用した」等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト組みに関しては希望日を考慮し、子育てをされているスタッフには法律にのっとったシフト調整をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	MCSでは管理者やユニットリーダー研修をその都度開催している。また、無資格者の採用を行っており、訪問介護2級取得の支援や施設内でもCWが指導員となりOJTの実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	MCSグループ内の他のホームへ見聞を深めるために訪問している。また、持ち回りで各施設の訪問もおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや事前面談用の書式を用い、ご本人が安楽にお過ごしいただけるかアセスメントの実施をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	フェイスシートや事前面談用の書式を用い、ご家族の希望を伺い、ご入居いただくご本人からうかがい知れない部分を傾聴し、施設での生活に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを開催し、そのときの必要なサービス(当施設入居を含む)を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のデマンドを、ニーズに転換し、ご入居者が今一番何をもとめているのかを把握し、ケアプランに反映しサービスを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のデマンドを、ニーズに転換し、ご入居者が今一番何をもとめているのかを把握し、その情報をご家族と相談しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のニーズを把握し、適宜努めている。実施する際は、ご家族と相談して個別対応を行っている	入居前の生活歴や日々の会話の中から利用者の思いを汲み取り、これまでの関係が継続出来るよう支援しています。趣味の山登りや家族の急な入院のお見舞い等に職員が付き添ったり、また入居前からのヘルパーとの交流も続けられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のテーブル配置に気を配っている。また、レク参加時においても気のおけないご利用者をお誘いしている。うまく溶け込めない、失語症のご利用者に対してはスタッフが手厚く対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去されたご家族の身内が当ホームの入居を検討されているときは、適宜連絡やお便りを送付している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの入居に対するおもや、アセスで得た情報を、的確にサービスに実施している。	日常の会話の中で利用者の思いや意向の把握に努めています。また、個別の介護手順書を作成し職員間で共有しています。意思疎通が困難な場合でも日々の生活、表情から気持ちを読み取り、利用者本位の生活が出来るように心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される場合には、使い慣れたものや昔の写真等をお持ちいただくようお願いしており、第2の棲家と思っただけのようサービスを実施している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの入居に対する思いや、アセスで得た情報を、的確にサービスに実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、3か月ごとのケアプランの作成を実施している。また、個別に介護手順書なるものを作成し、よりきめ細やかな支援を実施している	サービス担当者会議や面会に来た家族との会話の中からの情報を基に介護計画を見直し、作成しています。個別の介護手順書は1日の流れが記入され、状況変化や気づきがあった場合に変更し、一人ひとりに合った介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を記載し、心と体の変化に配慮している。また、連絡帳を用い、全スタッフに周知徹底をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応の徹底をはかっている。また個別に介護手順書なるものを作成し、よりきめ細やかな支援を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	適宜実施しております。消防訓練のさいは、ご利用者にも誘導のお手伝いをしてもらおう		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療をおこなっている。また、入居前からのかかりつけ医がいらっしゃる場合は、それも個々に応じて対応している	1階、2階フロアーの訪問診療日をずらして行うことによって毎週の受診が可能となり、早めの治療を受けることができます。利用者によっては、かかりつけ医の受診をヘルパーや家族の協力でい必要に応じて職員が付き添う対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回実施している。その報告を主治医に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の訪問医に紹介状の作成を依頼するとともに、受け入れ先もご家族の希望をきき入院していただく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについては必要書類をご家族よりいただいている。その後、ご利用者が重症化した場合はご家族と主治医に綿密に連絡を取り合い施設として対応できることを伝えるべく徹底している。	入居時に利用者、家族に終末期について意向を聞き取り、書類を頂いています。今後利用者が重度化した場合には、家族やかかりつけ医、ホーム側で連携を図り、利用者、家族の意向を踏まえた最期を迎えられるよう、支援方法を検討し、ホームで出来る限りの看取りを行うようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を構築している。またH22.6には心肺蘇生の応急手当の勉強会を実施する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(そのうち1回は夜間想定)の消防訓練を実施し、連絡体制を構築している。また地域住民の方も交えて訓練しております	昨年2回、消防署を呼んで消火訓練を実施しています。うち1回は、夜間を想定し、地域の方にも声をかけ、近くに住む従業員にも参加してもらいました。煙探知器、火災報知器、消火器が設置され、緊急対応表、連絡先も掲示されています。	介護度の高い利用者が比較的多いので、できるだけ早くスプリンクラーの設置を、また、外側に避難階段を設置できない状況の中、2階に重度の利用者が多いので、当面自主訓練を増やす等の工夫が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフにはご利用者に「さん」ついで呼ぶように指導し、「です、ます」と丁寧語を使うように合わせて指導している	利用者の部屋に入る時のノックや日常の声かけ、排泄、入浴時の羞恥心に配慮する等、個人の尊厳やプライバシーを損ねない対応を心がけています。また、接遇等を研修会で学び、日々の支援に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出の方法は、選択式をとっておりより選びやすく支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の過去の生活歴を重視し、入浴の時間帯やお出かけする時間、施設でのお手伝いをトータルに考えて、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を実施しているほかに、ご本人の生活歴を考えその人にあった援助を支援している。また、女性のご利用者には外出や誕生日会の際にはお化粧を施しております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のADLやできることを考慮し出来る限り、ご利用者に様々な食事準備やあとかたづけを手伝っていただいている	食事の準備は、りんごの皮むきやネギの刻み、後片付けなどを、利用者の力量に合わせ職員と一緒にいきます。また、職員も一緒に食卓を囲んで会話を楽しみます。利用者から希望を聞き回転寿司など外食を楽しむ機会も設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からのカロリー計算された献立表を元に調理をしており、個々の状態に応じて水分量チェックをおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔ケア状態を把握し、磨き残し等がないよう支援している。また、週1回の訪問歯科も合わせて利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツであっても日中はリハビリパンツを装着していただいている。排泄パターンを把握し、ご利用者に応じた排泄の誘導をおこなっている。	できるだけオムツをしないようにして、利用者の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っています。排泄の自立に向けた支援の結果、日中はオムツの利用者が1人のみで、介護度2から1になった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きなこ牛乳等の飲食に工夫をこらしており、それでも便秘の場合には、主治医から指示されている内服薬を適宜実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日の設定は設けておらず、ご利用者の希望やタイミングをばかてご入浴の支援を行っている。	入浴時間は利用者の希望やペースに合わせて対応しています。脱衣所に個別の入浴手順書を貼り、利用者が気持ちよく入浴できるように職員間で必要な情報を共有しています。また、体調がすぐれない利用者には清拭や足浴を勧めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決められているも、ご利用者のお休みになりたい時間を尊重し、よくお休みになれるためにも適度な体操や散歩も実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を理解しており、個々の服薬方法を考慮している。誤薬等がないように必ずスタッフによる服薬介助をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や自分のことはご自身で可能な限りおこなっていただき、出来ないことだけを支援している。また、嗜好品(酒、タバコ)も禁止しておらずその方の状態に応じて対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームで利用する日常生活品を各ユニットでスタッフといっしょに買出しにさせていただく。また、普段いけないような場所にも個々の能力に応じて、電車や車を利用し外出の機会の支援をおこなっている	利用者は、天気の良い日は毎日2～30分近くを散歩するようにしています。介護度の高い人は、1階のテラスで外気浴をしたり、車椅子で近くの公園に行くこともあります。また、全員で柴又帝釈天、花見等遠出をすることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態を考慮し、小額ではあるがお持ちいただいている。また、外出の際は買い物できる機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状態やご家族のご都合を考慮し、申し出があった場合には、電話をかけることができる支援をおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように飾り物をつけたり、ご利用者様といっしょに作成したりしている。各場所もわかりやすく表示している	居間は、明るく、清潔で、季節の花も飾られ、寛げるようになっています。壁には職員、利用者合作の季節感溢れたカレンダーや折紙、行事の写真、利用者の力作の習字が貼られています。限られた敷地を有効活用し、癒しのベランダが設けられ、家庭菜園、花壇もあり、利用者への配慮を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が自由にご利用できるよう椅子の配置を考えたり、気のあったもの同士と一緒に過ごすことができるよう、スタッフが口ぞえしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れたものや落ち着いた空間を演出するようにご家族と協議しながら支援している	利用者は、各自なじみの物(仏壇、夜具、椅子、小箆筒、写真、人形、絵等)を持ち込み、自分の家にいるように居心地よく過ごしています。持ち込み品の配置は、できるだけ家族にお願いするようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態におうじて見守りをしつつも、できる限りご自身でどのように過ごすかを考えることができるよう支援している		